

福岡市議会・ボルドー市姉妹都市締結 40周年友好訪問団出張報告書



姉妹都市締結40周年友好訪問団

目 次

第1 概要

1 訪問の経緯・趣旨	2
2 期間	2
3 訪問団員	2
4 日程	3

第2 参加した記念行事

現地1日目

1 ボルドー市議会議長を表敬訪問	5
2 『協力計画 2023-2026』の締結式	8
3 ボルドー市主催の意見交換会	12

現地2日目

4 先進事例調査(既存施設の有効活用)	13
5 先進事例調査(港湾地区におけるクリーンエネルギーへの転換)	16
6 ボルドー市議会議長との昼食会	19
7 福岡市主催の経済交流会「福岡祭」	20
8 産業関連調査(姉妹都市交流のシンボルであるワインに関する調査)	23

現地3日目

9 先進事例調査(エコ建築物の認証制度)	26
10 ボルドー市議会議員との意見交換会	29
11 ボルドー・ジロンド商工会議所主催の意見交換会	38

第1 概要

1 訪問の経緯・趣旨

本市とボルドー市は、昭和57年に姉妹都市となって以降、ワインを活用した経済交流や青少年の相互派遣などを続けており、さらに近年は、スタートアップ支援や環境分野など、両市のニーズに即した交流を加速させている。

今年度は姉妹都市40周年を迎え、5月に開催した福岡市側主催の記念行事には、ユルミック・ボルドー市議会議員(注1)を代表とする訪問団が来福されており、その際、ユルミック議長から、ボルドー市で記念行事を開催する際には福岡市議会の訪問を歓迎する意向が示されている。

そうした中、両市の交流に弾みをつけるため、新たに両市の間で『協力計画2023-2026』が締結されることとなり、このたびボルドー市において同計画の締結式をはじめとする姉妹都市40周年記念行事が開催されることとなった。

そのため、福岡市議会としても、福岡市長や地元経済団体等と記念行事に参加するとともに、関連する先進事例調査や市議会議員との意見交流等を実施することとなったもの。

(注1)フランスでは議長が市長に就任する制度のため、ユルミック議長は市長でもある。

2 期間

令和4年11月28日(月)～12月3日(土)6日間

3 訪問団員

団 長	伊 藤 嘉 人 (議長)
団 員	調 崇 史 (自由民主党福岡市議団)
団 員	堤 田 寛 (自由民主党福岡市議団)
団 員	稲 員 稔 夫 (自由民主党福岡市議団)
団 員	近 藤 里 美 (福岡市民クラブ)
団 員	はしだ 和 義 (福岡令和会)
団 員	中 島 まさひろ(自民党新福岡)



ボルドー市役所入口の歓迎バナー

4 日程

日付	内容
11月28日(月)	福岡空港発 (羽田空港乗換)
11月29日(火) (現地1日目)	(フランクフルト空港着乗換) ボルドー・メリニャック空港到着 1. ボルドー市議会議長を表敬訪問 2. 『協力計画2023-2026』の締結式 3. ボルドー市主催の意見交換会
11月30日(水) (現地2日目)	4. 先進事例調査(既存施設の有効活用) 5. 先進事例調査(港湾地区におけるクリーンエネルギーへの転換) 6. ボルドー市議長との昼食会 7. 福岡市主催の経済交流会「福岡祭」 8. 産業関連調査(姉妹都市交流のシンボルであるワインに関する調査)
12月 1日(木) (現地3日目)	9. 先進事例調査(エコ建築物の認証制度) 10. ボルドー市議会議員との意見交換会 11. ボルドー・ジロンド商工会議所主催の意見交換会
12月2日(金)	ボルドー・サンジャン駅発 (パリ駅乗換) パリ・シャルルドゴール空港発
12月3日(土)	(羽田空港乗換) 福岡空港着



第2 参加した記念行事

現地 1日目（11/29）

- ロシア情勢の影響からアラスカまわりの飛行ルートとなり、福岡から約 20 時間の移動を経て、昼過ぎにボルドー市に到着
- 午後から3つの記念行事に参加

1 ボルドー市議会議長を表敬訪問

高島市長や地元経済団体とともにユルミック議長（市長兼務）を表敬訪問。5月にボルドー市側の訪問団が来福された際、同議長から福岡市議会の訪問を歓迎する意向が示されており、今回の訪問により相互訪問が実現。

(1) 主な内容

ユルミック議長（市長兼務）等と、40年にわたる両市の姉妹都市交流の歴史を振り返るとともに、今後も両市の発展のために交流を深めていくことを確認した。

(2) 出席者

- ・ボルドー市 ユルミック議長（市長）、パパン議員（副市長）、コンジュー市長室長 他
- ・福岡市 高島市長 他
- ・福岡貿易会 土屋会長 他
- ・福岡商工会議所 津田副会頭 他



表敬訪問の様子
（個人情報保護のため一部マスキング加工）



ユルミック議長と伊藤議長（団長）

(3)これまでの両市の姉妹都市交流

ア、姉妹都市締結に至った経緯

1967年、当時の九州日仏学館から福岡市に縁組の話が持ち込まれ、福岡市の民間団体によるボルドー市訪問、児童画展や写真展の開催、九州大学とボルドー大学の姉妹連携など市民レベルの交流の積み重ねを経て、1972年に姉妹都市締結に至ったもの。

イ、近年の主な取り組み

① ワイン

- 姉妹都市30周年(2012年)を機に両市交流のシンボリックな事業として、ワインを通じた交流を福岡市から提案。2015年にボルドーワインバープロジェクトの共同宣言に調印。
- 2016年5月、福岡市内に姉妹都市交流の象徴として、ボルドーワイン委員会公認の「オ・ボルドー・フクオカ」がオープン
- 2017年から福岡市役所前広場で福岡ボルドーワイン祭りを開催(毎年数万人規模の参加者)



② スタートアップ支援

- 2017年5月、福岡市、福岡地域戦略推進協議会、ボルドーメトロポール(ボルドー都市圏)、ボルドー・テクノウェスト(官民組織)の4者でスタートアップの相互支援に関する基本合意書を締結
- 2020年9月、福岡市とボルドー・テクノウェストが共同でオンラインイベントを開催し、福岡市の支援内容を紹介
- 2021年10月、「ASCENSION 2021」にボルドー市の企業(視覚障がい者等に対してWEBサイトの表示を最適化するサービスを提供)が参加
- 2022年2月、地場企業向けのフランス・ボルドービジネスセミナーを開催
- 2022年5月、姉妹都市40周年記念イベントとして福岡市等がビジネス交流会を開催し、来福中のボルドー市訪問団が参加

③ 青少年交流

- 2015年からアジア太平洋子ども会議の交流事業で、子ども大使を派遣、受入れ
- 2017年からスピーチコンテスト優勝者を相互派遣

ウ、2022年、福岡市で開催された主な交流事業

① フランス・ボルドービジネスセミナー(2月)

将来にわたって続いていく両市の友好関係を見据え、オンラインで開催された地場企業向けビジネスセミナー。

② ボルドー市訪問団による来福(5月)

ユルミック議長(市長)を団長とする訪問団が福岡市議会議員や市長を表敬訪問。ユルミック議長から、ボルドー市で記念行事を開催する際には福岡市議会の訪問を歓迎する意向が示された。



表敬訪問の様子

③ 姉妹都市締結40周年記念ビジネス交流会 「日仏経済サステナブルフェア」(5月)

ボルドー市から議長(市長)やボルドー市商工会議所副会頭等、福岡市側から高島市長や経済関係者が参加した100名規模のビジネス交流会。日仏企業10社によるSDGsの取組紹介等も行われた。



ユルミック議長(市長)と高島市長

(出典：福岡観光コンベンションビューローHP)

④ ボルドーワイン Fukuoka Art Next(5月)

稀少なボルドーワインと現代アートを一緒に楽しめるイベントとして、ボルドーワインの試飲会と福岡市出身のアーティスト「博多絵師雄猿」の作品を展示するイベントを開催。最高のワインと最高のアートというフレーズで締結40周年をPR。

⑤ 福岡ボルドーワイン祭り(5月30日～6月12日)

2017年から続くイベント。「ボルドーの路地裏にある上質なワイン酒場を楽しむことができる14日間」と題して、天神の福岡市役所前広場で土日を含めて夜10時まで開催。



今年の祭りの様子

(出典：Fukuoka8 HP)

2 『協力計画2023-2026』の締結式

姉妹都市40周年を記念して新たに締結することとなった『協力計画2023-2026』の締結式に参加。両市長が署名し、今後、同計画に基づき、自治体間の協力に加え、地域機関・団体・市民による取り組み支援についてもさらに進めていくことに。

(1) 主な内容

本市とボルドー市は、昭和57年に姉妹都市となって以降、ワインを活用した経済交流や青少年の相互派遣などの交流を続けており、さらに近年は、スタートアップ支援や環境分野など、両市のニーズに即した交流を加速させている。

こうした中、姉妹都市40周年を迎える今年度は、姉妹都市交流に新たな弾みをつけるため、今後の交流のビジョンと市民への約束を明確にする『協力計画2023-2026』を両市が締結することから、市民を代表する市議会としてもその締結式に参加したものの。

(2) 締結した『協力計画2023-2026』の要旨

ア、地方自治体間の協力

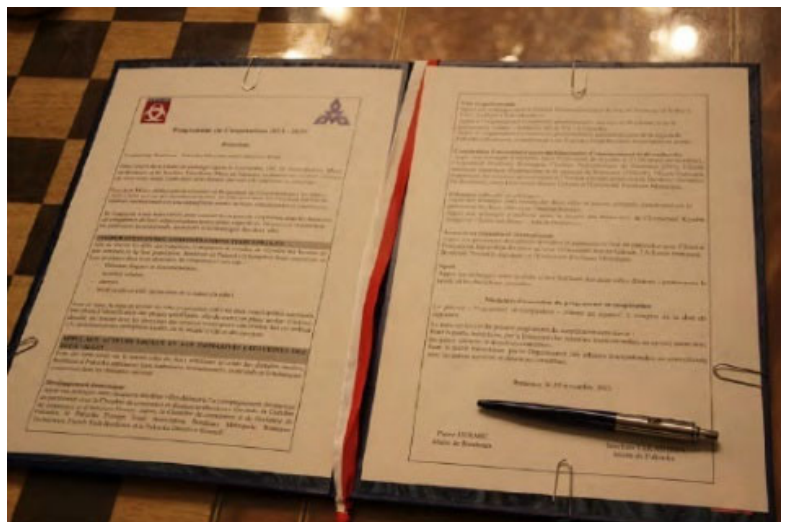
両市が地方自治体として、次の分野における専門知識と実務経験の交流を行うことを定める。

- ・グリーンビルディングとエコ建築
- ・エコ都市交通
- ・グリーン都市エネルギー
- ・都市における生物多様性(緑化の促進)

イ、両市の地域機関・団体や市民の取り組みの支援

両市が、地域機関・団体や市民の取り組みを支援する分野として、特に次の分野を定める。

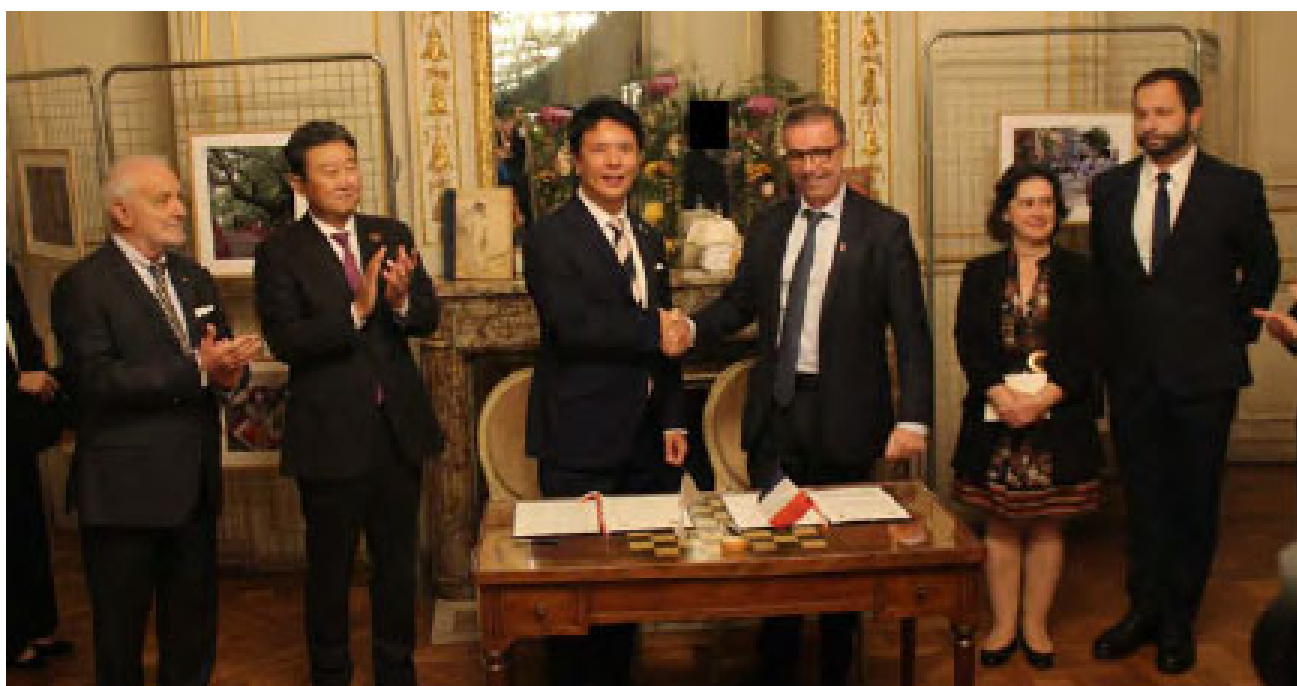
- ・経済振興
- ・ワインと美食
- ・教育・研究機関間の大学協力
- ・文化・芸術交流
- ・青少年国際交流
- ・スポーツ



『協力計画 2023-2026』

(3)出席者

- ・ボルドー市 ユルミック議長(市長)、パパン議員(副市長)、ブトルー議員(副市長) 他
- ・ラコスト在ボルドー日本国名誉領事
- ・福岡市 高島市長 他
- ・福岡貿易会 土屋会長 他
- ・福岡商工会議所 津田副会頭 他



左から、ラコスト在ボルドー日本国名誉領事、伊藤議長、高島市長、ユルミック議長、パパン議員、ブトルー議員

(4)『協力計画 2023-2026』

前文

今年は、福岡市とボルドー市の姉妹都市締結40周年記念の年です。

1982年11月8日に署名された姉妹都市議定書の精神に測り、福岡市長高島宗一郎とボルドー市長ピエール・ユルミックは、この象徴的な年を契機として、姉妹都市交流に新たな弾みをもたらすという共通の願いを表明する。

両市長は、国際交流のビジョンと市民への約束を基本方針に共同で協力計画2023年-2026年を策定している。

それぞれの市の行政の権限の範囲において、また両市の関係機関・団体・経済関連のパートナーと緊密に連携しながら、協力事業の支援に共に努力することを約する。

地方自治体間の協力

福岡市とボルドー市は、エコロジー移行および社会的転換の課題に対応し、それぞれの地域と市民のニーズに応えるため、以下の分野における専門知識と実務経験の交流を行う。

- グリーンビルディングとエコ建築
- エコ都市交通
- グリーン都市エネルギー
- 都市における生物多様性（緑化の促進）

両市の協力のもと、地元企業や市民の参画を確保しながら、まずは両市の関係部署も含めた協議から始め、段階的に進めていく。

両市の地域機関・団体や市民の取り組みの支援

福岡市とボルドー市は、過去数年間に両都市間で確立された繋がりを強化し、関係機関、団体、経済関連のパートナー、特に以下の分野の支援を実施する。

経済振興

ボルドー・ジロンド商工会議所、在日フランス商工会議所、福岡商工会議所、福岡貿易会、ボルドーメトロポール、ボルドー・テクノウエスト、フレンチテック・ボルドー及び福岡地域戦略推進協議会と連携し、両都市の支援組織間の交流の支援。

ワインと美食

ボルドーワイン委員会（CIVB）とワインバー<オ・ボルドー・フクオカ>の交流に対する支援。

福岡での<ボルドーワインまつり>をはじめとするワインと美食のプロモーション等イベント開催に対する支援。

福岡フードビジネス協議会等との連携による、ボルドーでの福岡地域の美食プロモーションイベントの開催に対する支援。

教育・研究機関間の大学協力

九州大学とボルドー大学、ボルドー・モンテーニュ大学、ポリテクニク・ド・ボルドー、ボルドー建築景観学院、ボルドー国立農業技術学院及びボルドー政治学院、並びに西南学院大学とボルドー・モンテーニュ大学における学生交流に対する支援。

文化・芸術交流

両市間の美術館・博物館等の交流に対する支援。

ボルドー市、ボルドーメトロポール、アンスティチュ・フランセによる、2都市間の文化関係者の交流に対する支援。

九州産業大学芸術学部とボルドー美術学校における学生交流に対する支援。

青少年国際交流

アンスティチュ・フランセ九州、西南学院大学、アリアンス・フランセーズ・ボルドー・ヌーベルアキテーヌ、ボルドー・モンテーニュ大学との協力による、日仏文化交流の推進に対する支援。

スポーツ

両市の武道団体等による剣道をはじめとする交流に対する支援

協力計画実施方法

当協力計画は、締結日から有効となる。

当協力計画実施のフォローは以下の通りに行われる。：

ボルドー市側は、国際交流部が他の関連部署と協議の上に行う。

福岡市側は、国際部が他の関連部署と協議の上に行う。

ボルドー市

2022年11月29日

ピエール・ユルミック
ボルドー市長

高島宗一郎
福岡市長

3 ボルドー市主催の意見交換会

高島市長や地元経済団体とともにボルドー市主催の意見交換会に参加。これまでの姉妹都市交流を振り返るとともに両市の課題やそれぞれの専門分野等について語り合った。

(1) 主な内容

表敬訪問や協力計画締結式に出席した福岡市、ボルドー市双方の関係者が参加し、両市の状況やそれぞれの専門分野等について語り合い、交流を深めた。

(2) 出席者

- ・ボルドー市 ユルミック議長(市長)、パパン議員(副市長)、コンジュー市長室長 他
- ・福岡市 高島市長 他
- ・福岡貿易会 土屋会長 他
- ・福岡商工会議所 津田副会頭 他

ボルドー市の概要

位置	フランス南西部 アキテーヌ地方 ジロンド県
面積	約49km ² (福岡市の約7分の1)
人口	約25万人 (2019年現在 ボルドー市HPより) *都市圏人口は約60万人であり南西部最大の都市
気候	西岸海洋性気候(気温差が少なく比較的湿度が高い)
姉妹都市 締結年月日	1982年11月8日
姉妹都市締結 のきっかけ	九州日仏学館館長(現在のアンスティチュ・フランセ九州)の提案により、民間団体のボルドー訪問や九州大学とボルドー大学の提携等が行われ、視察・調査の相互訪問を経て締結に至る。
まちの特徴	古くから交易の要衝として栄えた港町。市内を走るガロンヌ川の湾曲部に沿って三日月形に市街地が形成されたことから「月の港」とも呼ばれ、2007(平成19)年には世界遺産にも登録された。 ワインの産地として世界的に有名。航空宇宙産業なども盛んな地域
ボルドーワイン	生産量:540万ヘクトリットル、7190のブドウ農園 世界中で毎秒22本のボルドーワインを販売 (出典)ボルドー観光・コンベンション プレスリリース2016

現地 2日目 (11/30)

- 午前中に2つの先進事例調査。いずれも、新たに締結した『協力計画 2023-2026』に関連する先進施設として、ボルドー市から紹介された先進事例。
- 昼食時は、伊藤議長がユルミック議長、高島市長との昼食会に参加。
- 午後は福岡市主催の経済交流会「福岡祭」に主催者側の一員として参加。その後、両市の姉妹都市交流のシンボルとして位置付けているワインに関する調査。

4 先進事例調査(既存施設の有効活用)

両市間で『協力計画2023-2026』に関連する先進施設としてボルドー市から紹介された既存施設の有効活用事例について、ボルドー市や福岡市の関係者とともに調査。

(1)主な調査内容:「バスサン デ リュミエール(光の池)」

- 第2次世界大戦時に建てられた潜水艦基地跡を有効活用したデジタルアートセンター。
- 潜水艦基地(当時)は、潜水艦を同時に15隻収容できる潜水艦基地。11のドックがあり、うち4つは大きく、全長120mの1つのドックに2隻の潜水艦を収容できた。当時フランスを占領していたナチスドイツが、コンクリート60万m³を使用(壁の厚さ約10m)して建造した難攻不落の要塞だった。
- 第二次世界大戦後、フランス海軍に引き渡され、ボルドー市に払い下げられた後は、当初、取り壊しが検討されたが、空爆に耐えるほど頑丈に作られていたこともあり、施設を有効活用する方針に転換された。市の文化施設として利用されていたが、2018年に入札により、美術館などを運営する民間事業者が落札し(15年間契約)、2020年4月に世界最大のデジタルアートセンターとなっている。



施設の外観

(2)出席者

- ・ボルドー市 パパン議員(副市長)、モーリン議員(副市長)、ソフィ国際交流副部長 他
- ・福岡市 総務企画局国際部長 他

(3)主な質疑(要旨) 担 = 光の池担当者

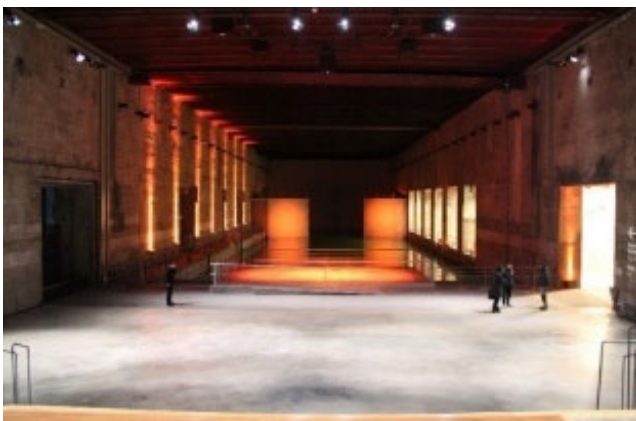
福 = 福岡市議会訪問団

福 11のうち4つ使っているが未活用のドックはどうするのか。

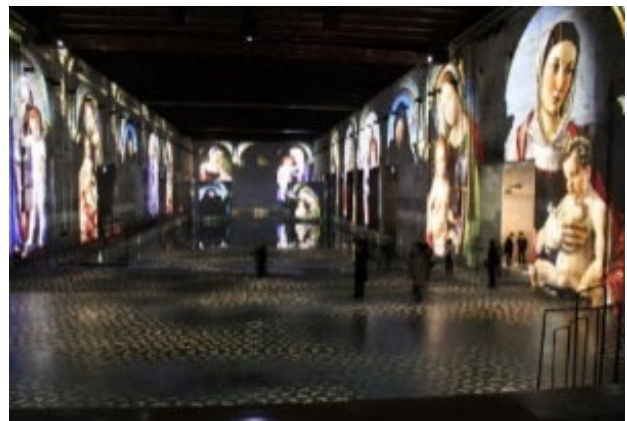
担 まず、未活用のドックが活用できるのかを確認しなければならない。戦後70年経っているので、コンクリートの安全性を確認し、その改修費用にいくら必要なのかなどの確認が必要である。その上で、未活用のドックについては、入札を行うなど経済的な活用を検討しなければならない。また、屋根の部分は、修復する必要があるが、開放して公共事業として太陽光パネルの設置や農作物を栽培することも検討している。

福 設備投資は入場料等の収入で賄えているのか。

担 来場者は年間50万人おり、利益は出ていると考えている。だが、未活用のドックの安全対策、修繕費用、照明の問題などそれらの費用をどう捻出するのか等の問題もあり、解決しなければならない課題はたくさんある。



プロジェクションマッピング前



プロジェクションマッピング中

(4) 訪問団員の所感

- 施設を改良するための手法として、民間への公募と委託というような手法をとられたようだが、港湾エリアの劇的な改善と費用の圧縮の両方を実現する上では、功を奏した好事例であると思われる。福岡市の様々な施策の実施にあたり、オーダーする側の固定概念で選択肢を狭めることのないような視点についても考えていく必要があると感じた。
- プロジェクションマッピングによるデジタルアートに感動した。福岡市でもウオーターフロント周辺のマリンメッセなどを使用されていない時に観光の一環として検討しても良いのではないかと思った。
- コンクリートの塊と海面という「ドック」の仕様をそのまま生かすことによって、費用を極力抑えつつ、観光資源・文化資源としての価値を創造した点については、地方自治体として見習うべき点であると感じる。
- 実際に施設を管理・運営を担っている事業者の生の声を聴くことができてとても有意義な時間であった。
- 第二次世界大戦の遺構を、年間50万人が訪れるボルドーを代表する観光資源に変えてしまうところはさすがであると感じた。
- 戦争の爪痕を、芸術を提供する施設として見事に活用していることに驚いた。
- 文化、芸術は他国への尊重にも繋がり、平和を維持するためにはとても大切なものだと思えて実感した。
- クオリティがとても高く、観光施策としても大いに参考になった。



説明を受ける様子（個人情報保護のため一部マスキング加工）

5 先進事例調査(港湾地区におけるクリーンエネルギーへの転換)

両市間で締結した『協力計画2023-2026』に関連する先進事例としてボルドー市から紹介されたクリーンエネルギーへの取り組みについて、ボルドー市や福岡市の関係者とともに調査。

(1) 主な調査内容

- ボルドー市は、港湾地区の産業で使われている化石燃料をクリーンエネルギー(水素)に転換することにより、ゼロカーボン工業地帯の実現を図る先進的なプロジェクトに取り組んでいるため、このプロジェクトについて調査したもの。
- ボルドー市は、港湾地区における化石燃料からのクリーンエネルギーへの転換に力を入れており、同様の戦略を持つ日本の港湾施設・企業にとっても大いに参考になる事例。
- 関係事業者によると、施策を進めるには技術的にクリアすべき課題も多くあり、福岡市とのパートナーシップを望んでいるとのこと。

(2) 出席者

- ・ボルドー市 パパン議員(副市長)、ブールー議員(副市長)、ソフィ国際交流副部長 他
- ・ボルドー・ジロンド商工会議所 ドニシアン副会頭、フォージェール商工会議所事務局長 他
- ・水素関連企業 代表者 他
- ・福岡市 高島市長 他



説明を受ける様子

(3)関係者による説明(要旨)

[ドニシアン副会頭(ボルドー・ジロンド商工会議所)]

○ボルドー市は、気候変動対策、エネルギーの転換に取り組んでおり、戦略の中心にあるのは水素。これは港湾施設や港湾関連企業にとって大きな転換点となり、今後、港の姿も変わっていくことになる。日本にもそのような戦略を持っている地方・企業があると聞いており、とても参考になると考えている。施策を進めるには技術的にクリアすべき課題も多くあるが、実用化するために福岡市とのパートナーシップを望んでいる。

[フォージェール事務局長(ボルドー・ジロンド商工会議所)]

○ボルドー市はヨーロッパの港湾地区の戦略の中心にある都市である。ボルドーと大西洋の間には七つの港がある。これらの港はすべて国有であり、それぞれの港は鉄道等で繋がっている。これらの港で使われるエネルギーは現在、そのほとんどを化石燃料から得ているが、ゼロカーボンを実現するため、今後は水素を中心としたクリーンエネルギーで賄うことを計画している。これからは港が水素の輸入港としても活躍していくことを目指している。

○ボルドーは農業もとても盛んな地域であるため、バイオマス燃料についても大きな可能性を秘めている。2024年にはバイオガスなどの生産を始める予定である。

[水素関連企業(代表者)]

○我が社は水素の製造を専門にしている。水素の製造はコストがかかると思われているが、水素の製造のために使用する電力(太陽光や風力発電)のコストは下がってきているため、水素の製造コストも確実に下がると考えている。

○水素エネルギーは産業界を始め交通インフラ等ですでに使われており、我々の目標は、必要とするところに安定的に供給すること。そのためのインフラを整備している。インフラを整備していく上で、九州はとても魅力のある地域であると考えている。

[パパン議員(副市長)]

○政治的な目標として、2050年には、地方自治体の枠を越えて、他自治体を含めた広い地域において排出するCO²を減らしていくことを目指している。また、私たちが使うすべてのエネルギーを持続可能なものにすることも目標に掲げている。この困難な目標を達成するためには、メトロポール(都市圏)などすべての地方自治体が一斉に取り組む必要がある。そのためには、事業者から一人一人の市民までの全ての人が許容できるような行政を目指していかなければならない。水素は将来の私たちの地球のソリューション(課題解決策)になるので、国・県・市町の全てのレベルで必要となる技術を支援していきたいと考えている。

(4)主な質疑(要旨) 担 = 水素関係担当者

福 = 福岡市議会訪問団

福 水素を貯蔵する技術には、解決すべき課題もあると思うが取り組みは進んでいるのか。

担 水素を圧縮して金属の容器に貯蔵する技術は100年前からあり、特に安全性についても問題はないと考えている。

(5)訪問団員の所感

○「福岡市は水素発電において国内でも先行している」と感じていたが、世界の潮流はとんでもなく早いということを目の当たりにした思いであった。

○水素により発電した電力をどのような形で供給し、活用していくかということについて考えた時に、日本においては九州がその可能性を秘めていることを認識した。九州において水素発電が展開されていくよう、福岡市が支社機能の誘致にとどまらず、できる限りの支援をする必要があると考える。

○水素関連事業者の経営者の立場にある方の事業戦略を直接聞くことができとても参考になった。福岡市での事業展開の可能性を感じた。

○姉妹都市からの企業誘致や人的・経済的交流を更に深化させるよう普段からの取組の必要性を感じた。

○ボルドー市の企業が福岡市に進出するきっかけとなる協議内容であったと思う。

○クリーンエネルギーについては、福岡市より進んでいるように感じた。

6 ボルドー市議会議長との昼食会

ユルミック議長、高島市長、伊藤議長の3人で昼食をとりながら意見交換。

(1)出席者

- ・ボルドー市 ユルミック議長(市長)
- ・福岡市 高島市長
- ・福岡市議会 伊藤議長



ピエール・ユルミック議長
(2020.7.3～)

(2)ユルミック市長が力を入れている施策

特に次のような低炭素経済等を推進するための施策に力を入れている。

ア、都市の緑化促進やグリーン都市エネルギー、グリーンビルディング

- ・ヒートアイランド対策として、公共空間の緑化の予算を強化
- ・再生可能エネルギーの導入や建物のエネルギー改修(太陽光発電導入等)を強化

イ、エコ交通システム(自転車道やトラムの整備)

ボルドー市の自転車専用道は全長163キロ。市民を対象とする無料自転車の貸出サービスもある。また、トラム(軌道系交通システム)が公共交通機関の中心となっており、自動車の走行車線を削減し、トラムや自転車専用レーン、幅広い歩道を整備する事業も進む。トラムは空港までの延伸計画あり。



無料貸出自転車(メトロポリタンバイク)

7 福岡市主催の経済交流会「福岡祭」

福岡市側の主催による経済交流会。福岡市からも、フランス進出等を検討している食や環境に関わる企業やスタートアップ企業も参加。訪問団もホスト側の一員として参加。

(1) 主な内容

- 福岡市はスタートアップ事業に力を入れており、ボルドー市との間でも、2017年5月に、福岡市、福岡地域戦略推進協議会、ボルドーメトロポール(ボルドー都市圏)、ボルドー・テクノウェスト(官民組織)の4者でスタートアップの相互支援に関する基本合意書を締結。
- 姉妹都市40周年を迎える今年度は、5月に、福岡市が40周年記念イベントとしてビジネス交流会を開催し、来福中のボルドー市訪問団にも参加していただいている。
- 今回は、ボルドー市において「食」「環境」「スタートアップ」をテーマにした企業ビジネスマッチングを実施。本事業をきっかけに、様々な業種間のマッチングや福岡への興味、関心を醸成し、将来を見据えた福岡市への企業誘致へと繋げる土台作りなどをを目指す。
- 高島市長や福岡の地元企業によるプレゼンテーションなども行われた。

(2) 式次第

- ① 高島市長プレゼンテーション
- ② ユルミック議長(市長)挨拶
- ③ DOKOJAPAN K.K.による プレゼンテーション
- ④ 写真撮影
- ⑤ 出展ブース等で企業マッチング(企業間のイベントのため、訪問団は予定どおり途中退席して次の行程へ)

(3) 出席者

- ・ボルドー市 ユルミック議長(市長)、パパン議員(副市長)、ブリュノー国際交流部長 他
- ・ボルドー・ジロンド商工会議所 マーク副会頭 他
- ・ボルドーワイン委員会 シャトー広報部長 他
- ・アキテーヌ日本人会 進藤会長
- ・福岡市 高島市長 他
- ・福岡貿易会 土屋会長他
- ・福岡商工会議所 津田副会頭、永江副会頭 他
- ・日本企業 DOKOJAPAN K.K. トーマスCEO、福岡フードビジネス協議会 西会長 他



プレゼンテーションの様子

(4) 姉妹都市交流事業におけるスタートアップ支援の取組み

- 2017年5月、福岡市、福岡地域戦略推進協議会、ボルドーメトロポール(ボルドー都市圏)、ボルドー・テクノウェスト(官民組織)の4者でスタートアップの相互支援に関する基本合意書を締結。
- 2020年9月、福岡市とボルドー・テクノウェストが共同でオンラインイベントを開催し、福岡市の支援内容を紹介。
- 2021年10月、「ASCENSION 2021」にボルドー市の企業(視覚障がい者等に対してWEBサイトの表示を最適化するサービスを提供)が参加。
- 2022年2月、地場企業向けのフランス・ボルドービジネスセミナーを開催。
- 2022年5月、姉妹都市40周年記念イベントとして福岡市等がビジネス交流会を開催し、来福中のボルドー市訪問団が参加。



左から、アキテーヌ日本人会進藤会長、ボルドーワイン委員会シャトー広報部長、ボルドー・ジロンド商工会議所マーク副会頭、ユルミック議長、高島市長、伊藤議長、福岡貿易会土屋会長、福岡商工会議所津田副会頭、同 永江副会頭

(5) 訪問団員の所感

- 「Fukuoka Growth Next」発のスタートアップ企業として福岡市で活躍しているボルドーの方のプレゼンはとても素晴らしいものであった。
- 会場として「ワイン博物館」を活用し、福岡の食材とボルドーワインとのマリアージュに関する現地での提案については、今後の福岡産の食材の世界的な拡がりにつながるメルクマールとなることが期待される。
- 多くの地元経済界の方が参加されており、交流が深まったことはとても有意義であった。



個人情報保護のため一部マスキング加工あり

8 産業関連調査(姉妹都市交流のシンボルであるワインに関する調査)

福岡市とボルドー市は、ワインを姉妹都市交流のシンボルとして位置づけ、ワインを用いたプロジェクトを数多く実施していることから、ワイン文化を学ぶためにブドウ畑や醸造所を調査。

(1)趣旨

- ボルドー市と本市は、姉妹都市30周年の際に福岡市側からワインをシンボルとした交流を提案し、それ以降、ボルドーワインバープロジェクトの共同宣言などの交流が続いており、40周年の今年は、福岡市内で「ボルドーワイン試飲会」や「福岡ボルドーワイン祭り」も開催。
- 地元の方々が誇りとし、両市交流のシンボルとなっているワインについて、ブドウ畑や製造工場を視察し、その製造過程やワインに対する思いなどを直接見聞きすることは有益であるとの考えからサン・テミリオン地区のワイン醸造所「シャトー・ショーヴァン」を視察したものの。

(2)姉妹都市交流におけるワインの役割

- 姉妹都市30周年(2012年)を機に両市交流のシンボリックな事業として、ワインを通じた交流を福岡市から提案。2015年にボルドーワインバープロジェクトの共同宣言に調印。
- 2016年5月、福岡市内に姉妹都市交流の象徴として、ボルドーワイン委員会公認の「オ・ボルドー・フクオカ」がオープン。
- 2017年から福岡市役所前広場で福岡ボルドーワイン祭りを開催(毎年数万人規模の参加者)

(3)シャトー関係者の説明(要旨)

[ブドウの生産環境について]

- 大西洋へと繋がるガロンヌ川は、ボルドー近郊のブドウ畑の発展に欠かせない役割を果たしてきた。
- ガロンヌ川が運ぶ土砂堆積は、ボルドーの土壌や地層を肥沃にし、ブドウ栽培に適していたため、ブライ、マルゴー、ポイヤック、ペサック・レオニャン、サン・テミリオン、サン・テステフ、サン・ジュリアン、ソーテルヌといった、世界的に有名なワイン生産地域になった。
- サン・テミリオンは高いところで海拔100mあり、海拔が高くなればなるほど土壌に粘土質が多くなる。粘土質の土壌は、ひんやりとしており、水分を多く蓄える性質があるため、ぶどうが水分を吸い上げやすくなる等、ぶどう栽培に適した土地である。
- サン・テミリオンを含む広い地域で降雨量が年々減ってきており、乾燥する日が多くなっていることから、収穫されるぶどうの実が小さくなってきている。そのため、ぶどうの生産量自体が減ってきており、関係者の悩みの種になっている。

[格付等について]

- サン・テミリオンの格付けは、大きく3段階に分かれており、格付制度は1954年に始まり、概ね10年毎に審査(見直し)されている。格付けについては、厳しく基準が決められており、広大なブドウ畑での収穫は、必ず手摘みであることや、樽の中に最低15か月熟成させなければならない

- などの決まりがあり、その厳格さから最近では、格付けを取得しないシャトーも出てきている。
- また、サン・テミリオンでは、ぶどうの作付面積を品種ごとに届出なければならない決まりとなっており、厳しく管理されている。
 - ぶどう栽培において、化学農薬の使用を全廃する取り組みがボルドー全体で進んでいる。サン・テミリオンにおいては、2023年以降も化学農薬を使用しているシャトーはサン・テミリオンを名乗れないこととなっている。
 - シャトーの設備は近代的な設備を採用する一方で、ぶどう畑は昔行われていた馬で耕す手法を採用するシャトーが増えている。これは、機械でぶどう畑を耕した場合、土壌を固めてしまい、ぶどうの根の成長を止めてしまうためである。

【製造について】

- 手摘みしたぶどうは、実と茎に分けられるが、茎が醸造の際に入ってしまうとワインに苦味が出てしまうため、すべて取り除かれる。
- ぶどうを熟成させるために使用する木樽はすべてフランスの木材を使用して作られる。木樽を作る際に内側を焦がすのだが、その焦がし具合によって、ワインにつく香りが変わる。焦がし具合を強くすると、コーヒーやチョコレート、燻製の香り、ミディアムであればバニラ系の香り、焦がし具合が軽いとフローラル系の香りになる。
- 「シャトー・ショーヴァン」では、ワインを保存するタンクを新型に入れ替える改修を行っている。従来は、寸胴タイプの円柱形であったが、新型は、上部が細い円錐形になっている。これは、醸造の際に浮かんでくる皮などを集めやすくするためである。



シャトー・ショーヴァンの担当者による説明の様子
(個人情報保護のため一部マスキング加工あり)

(4) 訪問団員の所感

- サン・テミリオンでは、ブドウは手摘みだけしか許されないことのほか、樽の中で最低でも15ヵ月の熟成期間を経なければ出荷することができないことなど、気の遠くなるような手間と多額の費用をかけながらワイン造りが続けられていることを知った。本視察で、この地の人々がボルドーワインの歴史にどれだけの誇りを持っているかなど、ボルドーの文化の一部を伺い知ることができて有意義な時間であった。
- ボルドー市の歴史や文化、産業の発展や市民生活に至るまで、「ワイン」が核となっていることを感じた。
- 今や世界中でワインが醸造されているが、その中にあっても「ボルドーワイン」の付加価値を保ち続けるために、産地・シャトーのそれぞれが努力を重ねていることに加え、厳格な格付け制度がしっかりと保たれていることの意義について学ぶことができた。
- それぞれのシャトーが厳格に規定を守り、運営されていた。そのことがボルドーワインのブランドを守っているのだと感じた。
- 農業エリアと都市エリアが連携しており、地産地消の仕組みがつけられていた。
- ボルドー市と本市はワインでの交流がメインであるため、製造過程を観察できたことはとても有意義であった。
- 初めてボルドー市を訪問してブドウ畑やシャトーを視察した。これまで人の話や雑誌等では知らなかったことを実際に現地で見させて貰いとても参考になった。



醸造施設

現地3日目（12/1）

- 午前中は、前日午前同様、『協力計画 2023-2026』において両市間で交流することとされた環境問題に関する先進事例調査。
- 午後は、ボルドー市議会との意見交換会と、ボルドー・ジロンド商工会議所主催の意見交換会に参加。

9 先進事例調査(エコ建築物の認証制度)

両市間で締結した『協力計画2023-2026』に関連して、ボルドー市から先進事例として紹介されたエコ建築物の認証制度。ボルドー市や福岡市の関係者とともに調査。

(1) 主な調査内容

- 両市間で締結した『協力計画2023-2026』が掲げるエコ建築に関連してボルドー市から紹介された先進事例（「エコ建築ラベル」と呼ばれる認証制度）。
- エコ建築ラベルと呼ばれるエコ建築の認証制度は、エネルギー消費の少ない建物を作ることや地元の木材を使用した木造の設備を増やすことを目的として、2021年5月に導入。
- この認証制度の目的は、建物や住宅の開発業者等がボルドー市と協力し、ハイテク機器やエネルギー消費量の高い機器を使用せずに、建物の脱炭素を実現するためのアドバイスやサポートを受けられるようにすること。
- ボルドー市から最大200km以内で購入したバイオ素材を使用し、コンクリートなどの材料の使用量をできるだけ抑え、再利用やリサイクルを促進し、建築物の環境負荷を軽減する。



認証を受けた木造の立体駐車場（建築中）

(2)出席者

- ・ボルドー市 ソフィ国際交流副部長 他
- ・福岡市 高島市長 他

(3)建築関係者の説明(要旨)

- このエリアは、大学キャンパスの一部やオフィス街、託児所、居住スペースがつくられる複合スペースである。このエリアに造られる建物は、建材の50%以上に木材を使用することが決められている。木材を使うことで、防火対策に課題もあり、どの建物にも正面玄関から消防がアクセスできるようにしなければならないとの制限が設けられている。
- また、火災が生じた場合に1.5時間は火が広がらないことが条件となっており、建物が密集しないよう、駐車場のスペースを多めに設置している。建物の壁は約14cmの木製であり、使用される木材が二酸化炭素を吸収する効果も想定している。内側は木材を使用しているが、表面に熱や光や湿気を遮断する建材を使用しており、石材に似た外観となっている。

(4)主な質疑(要旨)

建 = 建築関係者
福 = 福岡市議会訪問団

- 福 この事業は公共投資で行っているのか。
- 建 主に民間投資である。
- 福 高いビルを建築した場合、コンクリート製よりも脆いのではないか。また、木材を使う場合と使わない場合の耐用年数の違いはあるのか。また、建築コストに違いはあるか。
- 建 ここは地震が少ない地域ではあるが、木材を使用した建物の耐震性を確保するため、様々な基準が設けられており、それらの基準をクリアしなければ建設できない。木材を使用した建物の耐用年数は50年程度である。木材を使用する建物の建築コストは、使用しない建物と比較すると30%程度アップする。
- 福 完成時期はいつ頃か。
- 建 工期は2年間であり、来年完成予定である。
- 福 緑化に関して規制はあるか。
- 建 建築してから10年間はそのままの状態を保つことを求める規制など様々な規制がある。

(5) 訪問団員の所感

- 地域産木材の活用は福岡市でも重要な政策課題の一つであり、ボルドー市の背中を追いかける価値は大いにあったと感じた。
- 石造建築物が中心のボルドー市において、木質化に挑戦されている現場を視察したが、エコに取り組む上で、市民が従来から持っている概念を覆し、積極的に進めていくためにも、木造・木質建築は意義があるものだと思う。
- ボルドー市においても、建築材として容易に木材の入手が可能であるとの説明を受けた。森林が3分の1を占める福岡市においても、市内産材の活用について考える必要があると思う。
- 木材の使い方が斬新で興味深かった。



認証を受けた木造のオフィスビル（建築中）

10 ボルドー市議会議員との意見交換会

ボルドー市議会から様々な知識・経験を学ぶとともに、両市議会による姉妹都市交流の支援を確認するため、市議会議員との意見交換会を実施。

(1)出席者

ボルドー市議会議員(65人中12人参加)

クロード・ビシェ氏、バーナード・G・ホワイト氏、オリヴィエ・カゾー氏、パスカル・ブスケ・ピット氏、カミーユ・チョップリン氏、ディディエ・ジャンジャン氏、ヴィンセント・モーリン氏、ハーモニー・レサーフ・ムニエ氏、サンドリーヌ・ジャコト氏、ディミトリ・ブトルー氏、ナディア・サーディ氏 他



ボルドー市議会議員との意見交換会（個人情報保護のため一部マスキング加工）

(2)主な調査内容

ア、議員数と任期

○議員数は65人。直接普通選挙により選出され、任期は6年とのこと。

イ、市議会の役割

○市議会、市の業務についての審議、市の予算の決定、市長の運営についての管理の役割を担っている。

ウ、議員の被選挙権

○18歳以上であること

○フランス人または欧州連合加盟国の国民であること

○有権者であること

○地方自治体の管轄内で職務を遂行している、または特定のカテゴリに属した公務員でないこと

○選挙区の市区町村の職員ではないこと

エ、フランスの地方議会

○フランスにおける自治体は、市町村(コミューン)、県(デパルتمان)、地域圏(レジオン)の3層制となっており、それぞれの議会は、直接普通選挙で選出される。なお、市町村数は3万5千、県数は96、地域圏数は13。

○市議会議員は、市民から直接選挙で選ばれ、名簿方式で選出される。

○第1回投票で絶対過半数(少なくとも50%プラス1)を獲得した場合、議席の50%を獲得し、残りの議席は、得票数に比例して、5%以上の得票を得たすべての会派に分配される。それ以外の場合は第2回投票がある。

○第2回投票では、第1回で得票率が10%を超えた会派のみ参加できる。ただし、取得率が5%から10%の会派は、取得率が10%を超える会派と統合できる。最高の得票を得た会派は、議席の50%を獲得でき、残りの議席は、投じられた5%以上を獲得したすべての会派に得票数に比例して分配される。

○以上のことから、第1党が必ず安定多数を得る選挙制度となっており、第1党の名簿順位第1位に記載された候補者が議長に選出される。

○コミューン議会議員はパリテ法(議員職及び公選職の男女同数を助長する法律)により男女ほぼ同数。

オ、市議会の会議

○少なくとも四半期に1回開催する必要がある、ボルドー市議会は5週間に1回開催されているとのこと。市議会は、在職中の議員の過半数が出席している場合にのみ、有効な審議とされる。議会は公開。

○議長(市長兼務)は必要があると認めるときはいつでも市議会を招集することができる。

○また、議長は、議会警察権を持っており、聴衆を追放したり、秩序を乱す個人を逮捕することができる。

【ボルドー市議会の開催日】(例、2022年12月～2023年12月)

2022 年 12 月 13 日 (火) 午後 2 時

2023 年 1 月 31 日 (火) 午後 2 時

2023 年 3 月 28 日 (火) 午後 2 時

2023 年 5 月 2 日 (火) 午後 2 時

2023 年 6 月 6 日 (火) 午後 2 時

2023 年 7 月 11 日 (火) 午後 2 時

2023 年 10 月 3 日 (火) 午後 2 時

2023 年 11 月 7 日 (火) 午後 2 時

2023 年 12 月 12 日 (火) 午後 2 時

(生配信・録画中継やホームページへの議事録掲載あり)



本会議場で意見交換（個人情報保護のため一部マスキング加工）

キ、議長(市長兼務)

- 議長は市長に就任して、市政を統括し、市議会の決定事項の推進、工事の実施、支出計画の適切な執行を指揮する。
- 議長は、州における自治体の代表であるとともに司法警察の役員でもあり、市警察、市町村の域内における法律や規則の適切な執行、市民資格、選挙の運営も担当する。
- 何らかの理由で市長の再選挙が必要な場合は、議員の再選挙が行われ、市長が不在の会期は最年長議員が議長を務めることとなる。
- 議長は、欧州議会における議長の任務、地域評議会の議長、総評議会の議長と兼任できない。
- 副市長も議員から同じ任期で選出され、ボルドー市では議員から25人の副市長が選任されている。

(3)主な質疑(要旨) ボ = ボルドー市議会議員

福 = 福岡市議会議員訪問団

福 ボルドー市議会議員の選挙制度はどのようなになっているのか。

ボ フランスの選挙は通常、第1回投票と第2回投票がある。各政党が候補者のリストを作成し、投票が行われる。ボルドー市には現在65議席ある。第1回投票で50%以上を獲得した政党があればそこで選挙が終わるが、そうでなければ第2回投票に進む。第1回投票で勝利した政党があった場合、リストの議員が議席の半分以上を確保する。残りの議席は、各政党の投票数に応じて各政党へ配分されることになる。第1回投票でリストの得票率が5%未満だとそのリストの候補者の選挙はそこで終わり、第2回投票には進めない。10%以上だと第2回投票に進める。得票率が5%～10%未満の政党の候補者は、他の政党と連立してリストを作成することもできるため、連立した場合は第2回投票に参加することができる。第2回投票の結果において、第1党が議席の50%をとり、残り50%の議席は得票率の比例配分により配分されることになる。リストは男性1に対して女性1となるように作らなければならない、ボルドー市では議員の男女比が1:1となっている。第1党の政党のリストの筆頭候補者が議長(市長)となり、各助役(各副市長)が選ばれる。

福 候補者のリストは誰が作るのか。

ボ リストの作成には政策に賛同する候補者が集まり、これらの候補者が誰を筆頭にすれば選挙に勝てるかなどを話し合い、党首やリストの記載順位などを決めることになる。

福 議員は、議員としての職務の他に兼職しているのか。

ボ 議員の職務は使命だと考えている。報酬は手当程度であるため、ほとんどの議員が兼職している。中には民間企業の管理職をしている議員もいる。

福 月1回の議会ではどのように議論がなされているのか

- ボ 正確には5週間に1回の周期で年10回程開催している。それぞれ集中的に審議を行っており、場合によっては深夜まで議論することもあるほど集中した議論を行っている。昨年は50ほどの議案等を審査したが、議会の開催に向けて事前の準備を十分に行っている。
- 福 各副市長の役割分担は話し合っているのか。それとも議長(市長)が決めるのか。
- ボ コンセンサスに基づくマネジメントを行っており、市長が一人ですべてを決めるのではなく、各議員はそれぞれ自分がやりたい分野や希望する職務内容について主張し、民主的に決定している。最終的には市長が任命することになるが、あくまでコンセンサスに基づいて決定されている。
- 福 福岡市は過去10年間で住宅地の価格が1.5倍になっており、市の財源である市税収入の1/3が固定資産税であり大きな割合を占めているが、その伸びが大きくなっている。一方、近年、少子化や高齢化などによって社会保障の比重が大きくなってきており、その財源が課題となっているが、ボルドー市では財源や社会的課題などはどのような状況になっているか。
- ボ ボルドー市においても不動産価格が上昇している。ボルドー市では優先順位の高い高齢者や子どもへの支援を拡大したこと等によって社会保障関連の支出が増加した。また、国の方針として各自治体に住民が納めていた住民税が廃止された。そのため、他の分野での支出を調整するとともに、固定資産税の税制(税率)の変更による調整を検討している。
- 福 新型コロナウイルス感染症拡大で経済が大きな影響を受け働き方も変わった。コロナ後の今後の経済をどのように回していくのか考えているところであるが、ボルドー市議会として、経済を回していくためにコロナ対策とのバランスをとりながらどのような経済対策を考えているか。
- ボ 経済対策として、小規模事業者のデジタル化を支援している。また、相談窓口を作って一つの窓口で複数の相談に対応できるような体制を整えている。その他、脱炭素を進めながら都市開発も進めるというプロジェクトを行っており、経済を発展させつつ脱炭素を見据え、環境とのバランスを取りながら経済対策を進めている。
- 福 副市長(議員)が区長を兼任しているとのことだが、日本では区長は行政の職員が行うことが一般的である。何か意図があるのか。
- ボ パリ、マルセイユ、リオンは特別行政区としてフランスの法律で定められているため、この3つの区長は、おそらく日本の区長と同様のものと認識している。したがって、区長でありながら他の役割を兼任することはできないと考える。しかし、ボルドー市の区は特別区のことではなく区域のことである。ボルドー市にはこの区域が8つあり、それぞれの区域を副市長が担当している。

(4) 訪問団員の所感

- ボルドー市議会議員の報酬はわずかな手当程度であり、ボランティアで運営されている感じがした。議会開催期間も数日に限られており、本市とはかなり異なった議会運営がなされていることに驚いた。
- 選挙制度を知ることで、市長の権限が強くなりすぎるのではないかと感じた。市長が変わる度に大きな政策転換が起きることに繋がるので良い面、悪い面があると感じた。
- ほとんどがフリースタイルであったため、ボルドー市議会議員とざくばらんに話が出来た点が良かった。
- 議員報酬が少なく兼業している議員が殆どで地域から選出された議員も多かった。昼間は仕事をしているので夜に議会を開会しているとの説明もあり、とても印象に残った。
- ボルドー市の場合は市議会議員が市長を兼務しているのと同様、市議会議員も行政の役割も兼務しているという点が日本との大きな違いであるが、議場での意見交換会は非常に意義深く、楽しく、興味深い時間となった。



ボルドー市議会議員（ボルドー市 HP より）

ボルドー市議会議員

クロード・ビシェ 財務・気候変動への挑戦・ 未来担当		バーナード・G・ホワイト シャトロン区役所	
ステファン・ファイファー 雇用・社会経済・連帯・ 革新的経済形態担当		オリヴィエ・カゾー 南ボルドー区役所	
バーナード・L・ブラン レジリエント都市計画担 当		パスカル・ブスケ・ピ ット コーデラン区役所	
カミーユ・チョップリン デモクラシー・アソシア ティブライフ・集団知能 によるガバナンス担当		オリヴィエ・エスコッ ツ 差別との闘い・障がい 福祉担当	
ディディエ・ジャンジャン 都市自然・地域平穏担当		ファニー・ザ・ベিকা ー 幼児担当、ナンスーテ ィ・サン・ジュネ区 役所	

デルフィーヌ・ジャメ 一般行政・公共政策の評価・データ戦略担当		ヴィンセント・モーリン ボルドーマリティム 区役所	
マチュー・アズアール スポーツ・アソシエーション リレーションシップ・スポーツ クラブ担当		シルヴィ・ジャストメ 衛生安全・健康・シニア 担当	
ハーモニー・レサーフ・ムニエ 権利・連帯担当		ドミニク・ブイソン サントーギュスタン、トーザン、 アルフォンス・デュプー区役所	
アミン・スミス 安全・治安・予防担当		サンドリーヌ・ジャコト 商店・市場・地域行事 担当	
シルヴァー・シュミット 教育・子供・青少年担当		ローラン・ギルマン リソースマネジメント 担当	
ディミトリ・ブトルー 文化の創造と表現担当		フランソワーズ・フレミー ラ・バスティード区役所	

ナディア・サーディ 経済変化の支援担当.		ヴェロニク・セイラル 政治的優先地区担当	
セリーヌ・パパン 国内・欧州・国際地域協 力担当			

11 ボルドー・ジロンド商工会議所主催の意見交換会

ボルドー・ジロンド商工会議所主催の意見交換会。両市の姉妹都市交流では経済振興やスタートアップ支援が大きな柱となっており、両市の経済団体や福岡の企業も参加。

(1)出席者

- ・ボルドー・ジロンド商工会議所 パトリック・セガン会頭、ドニシアン副会頭 他
- ・ボルドー市 ユルミック議長(市長)、ソフィ国際交流部長 他
- ・福岡市 高島市長 他
- ・日本企業 DOKOJAPAN K.K. トーマスCEO、福岡フードビジネス協議会 西会長 他

(2)訪問団員の所感

- 複数の通訳者のおかげもあり、十分に意見交換を行うことができ、有意義な時間を過ごすことができた。
- ビジネスを中心とした意見交換が行われた。お互いのビジネスチャンスが出来ればとの意見もあり、両市、経済界の更なる発展を願う。



挨拶する伊藤議長



ユルミック議長、高島市長、セガン会頭、伊藤議長、ドニシアン副会頭